

# 人間発達学部

教養部会教授 石田 直章

## 1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
論文			
単著 森林セラピーコース歩行時の生理的運動強度の検討	2011. 3	名古屋芸術大学研究紀要（第32巻）	森林セラピーコースをノルディックウォーキングによって歩行した際の心拍数・酸素摂取量・自覚的運動強度を測定し、メタボリック症候群の改善に対して十分な負荷である事を証明した。さらに冬季スノーシュー・ノルディックウォーキング時に、同様の測定を実施し、より効果的な運動強度である事を明らかにした。
著書			
共著 障がい者レジスタンス・トレーニングの創造	2011. 3. 1	創造とスポーツ科学 東海体育学会編 pp100-117	脳性麻痺・筋委縮症・脊髄損傷の基礎疾患を持つ対象者に、レジスタンス・トレーニングを長期に渡って実施し、顕著な効果が確認された事を報告した。医療におけるリハビリテーションへのスポーツ科学領域からの新たな提案である。

## 2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

## 3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
IPC Powerlifting World Championships in Kuala Lumpur 2010 に監督として参加	2010. 7. 20～8. 1 Kuala Lumpur Malaysia	4年に1度開催される標記大会に4名の選手と共に監督として参加した。ロンドン・パラリンピック参加に向けた重要な大会である。同時に、連日行われた、世界ミーティングへも参加し、IPC Powerliftingの進むべき方向性を議論した。
第7回日本ディスエイブルパワーリフティング協会西日本選手権大会開催	2010. 10. 24 名古屋芸術大学西キャンパス体育館	本大会はIPC公認の大会であり、国際大会に参加するために必要な公認標準記録を認定できる大会である。
Guangzhou 2010 Asian Para Games に監督として参加	2010. 12. 8～12. 22 中国 広州市 (Guangzhou China)	第1回アジアパラリンピックのIPC Powerliftingに3名の代表選手と共に監督として参加した。本大会は、ロンドン・パラリンピックの参加枠を決める重要な大会であると同時に、日本障害者スポーツ協会が各競技団体の年間活動費を決定するための基礎となる大会の一つでもある。4位1名、5位2名は、大変良好な結果であった。